



木屋町通



高瀬川



空から見た町家群

## 「木屋町と先斗町を結ぶ 貴重な町家群」

→ 一条から四条の間の木屋町通沿いは高瀬川の舟運  
→ をはじめ、江戸時代から栄えてきた場所で、幕末の歴史の舞台ともなりました。旧立誠小学校の向かいに位置する旧キンセ酒店と旧39番路地側の京町家は、嘉永5年(1852年)に初代当主が津から京都に移り住んで以降、家族で守り継がれてきた9軒の町家群のうちの3軒です。旧キンセ酒店が、一帯のお茶屋や料理屋との取り引きにより大いに繁盛していたことや、旧39番路地側の京町家の出格子に残る傷が、幕末の刀傷の跡であることなどが伝えられています。

## 旧キンセ酒店と 旧39番路地の 景観保全によせて



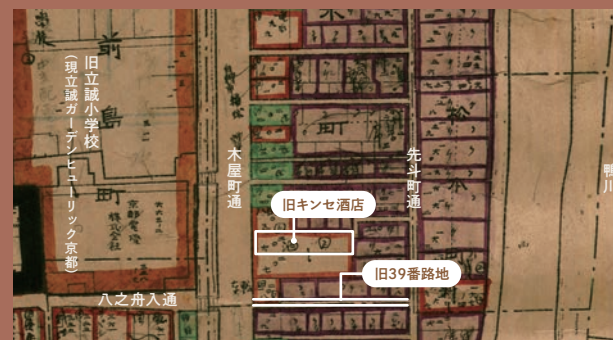
京都市中で最古の校舎を残す旧立誠小学校(現立誠ガーデンヒューリック京都)。その敷地の南辺を区切る八之舟入通は、木屋町通に突き当たって止まります。その先に、三軒の町家が並んでいます。旧キンセ酒店は、「小間返し横格子板壁」と呼ばれるいかめしい壁が残されていました。酒屋に相応しい堅牢な構えです。それを生かしつつ、南側の町家に歩調を合わせて格子も復元されました。

さて、旧39番路地とはなんでしょうか。昭和26年頃とされる古い地図(「京都市明細図」)には、木屋町通と先斗町通の間にたくさんの路地が描かれています(現在も、いくつかの路地が残ります)。呼び分けるために、みな番号が付されていたのです。かつての木屋町には商家や問屋などが、先斗町側には今も茶屋や料理屋などが軒を連ねています。両者を繋ぐ狭い路地には、借家や長屋、「貸席」と呼ばれるちいさな町家が、隙間なく並んでいました。旧39番路地は、そんな家並を今に残す希少な路地の一つです。この度の改修事業で、その景観の一面が蘇りました。

京町家まちづくりファンド委員長  
大場 修 氏  
立命館大学  
衣笠総合研究機構 教授



「京都市明細図」をよく見ると、八之舟入通は、そのまま39番路地に続き、先斗町に抜けていることがわかります。近い将来、木屋町と先斗町との行き来ができるようになれば、路地再生としての今回のプロジェクトの意義がまっとうされます。

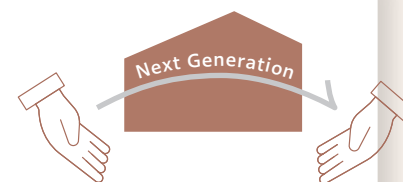


## 京町家を未来へつなぐ基金にご協力を

京町家まちづくりファンドは、京町家の改修助成事業を通じて、所有者・居住者とともに京町家を再生し、次の時代につないでいくための基金です。一軒でも多くの京町家を未来に受け継ぐため、皆様からのご支援をお願いいたします。



京町家まちづくりファンド  
ウェブサイト



発行

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター  
〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館 京都」地下1階  
TEL 075-354-8701 HP <https://kyoto-machisen.jp/>  
当財団では京町家まちづくりファンドの運営をはじめ、京町家の保全・継承の支援に取り組んでいます。

京町家まちづくりファンド  
PROJECTS



京町家まちづくりファンド改修助成事業 記録集  
令和4年度選定

# 旧キンセ酒店と 旧39番路地



Kyoto Center for Community Collaboration

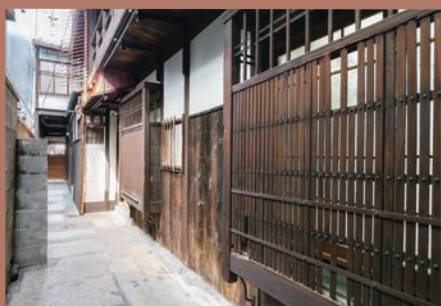
公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター



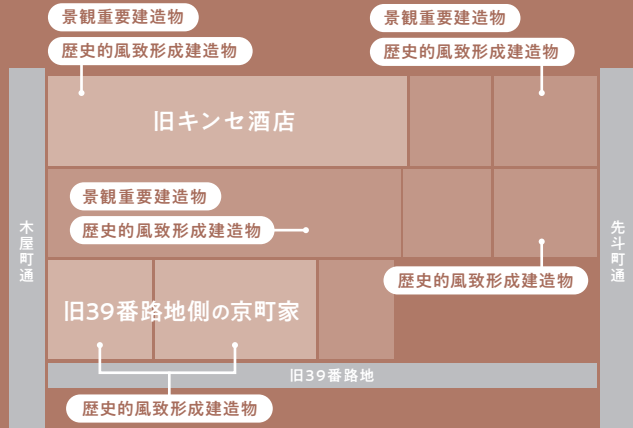
## 改修前



## 改修後



上 旧39番路地側の京町家（木屋町通に面す）  
下 旧39番路地内



上 木屋町通沿いより  
中 賑わいを見せる旧キンセ酒店  
下 旧39番路地内

## RESTORE

### 昔の風情を残した改修

旧キンセ酒店の1階西正面の南袖壁には、特徴的な「小間返し横格子板壁」の町家意匠が残されています。南隣にも同じ意匠の袖壁があり、同時期の改修によるものだと考えられます。残された意匠を活かしながら、格子などの改変された部分に

ついて丁寧に痕跡を探し、復原を検討しました。その際には、京町家の改修を数多く手がけてきた建築士の末川氏と、辻棟梁、京町家まちづくりファンド大場委員長を交え、復原の方法や外観意匠全体について協議を重ねました。

### 「取り戻した風情と賑わい」

復原された町並みにより、木屋町を行き交う人々に、連綿と受け継がれてきた街区の歴史を深く感じてもらえるものと思います。旧キンセ酒店には人気フレグランス店が出店し、多くの訪日外国人や若者達で、朝から晩まで賑わいを見せています。旧39番路地側の京町家は恵まれた立地にあることを活かし、古き良き京都の雰囲気を感じていただける場にしたいと活用を計画されています。また、将来的には路地内の扉を開放することで防災的な安全性を高め、木屋町と先斗町とを往来できるようにしたいと所有者はお考えです。古今、京の賑わいの中心であったこの地で、再びこの町家群が、景観と文化の発信拠点となり、多くの賑わいを見せることを望みます。

### DATA

#### 旧キンセ酒店と旧39番路地

|     |                |
|-----|----------------|
| 建築年 | 明治20年(1887)以前  |
| 対象  | 9軒からなる町家群の内の3軒 |
| 設計  | 末川協建築設計事務所     |
| 施工  | 株式会社 辻工務店      |

### 改修前の様子



### 外観意匠協議の様子



### 改修設計のポイント 末川 協氏より

木屋町通沿いの旧キンセ酒店と旧39番路地側の京町家は、市電敷設(明治28年)による軒切直後の外観に復元。旧39番路地側の京町家では8mのヒトミ梁の入れ直しを行いました。路地内は、近年の増築部分を撤去し、幕末の刀傷の残る出格子や2階高欄廻りを築造時の姿に復元。高欄で1m、更に大屋根軒で1mの跳出しは圧巻で、先斗町まで総長40mの歴史的な全天候型路地の復元が楽しみです。



旧39番路地内

### 旧キンセ酒店と旧39番路地 所有者より

母方の祖先が滋賀から京都に移り住んで以来、約150年もの長い間、木屋町から先斗町にかけて残る町家を家族代々で大切に守ってきました。昭和の時代、私が覚えている光景は、酒屋やお茶屋として活気あふれる通りを支えていた町家の姿です。近年は飲み屋街として、主に夜に賑わいを見せていたこの地域ですが、今回の保存改修では、その歴史的な景観を復元するだけでなく、昼間にも人々が自然と集まるような新たな活用を目指しました。改修後には、若

者が列をなす人気の物販店が町家の一棟にオープンし、若い世代が町家の魅力を肌で感じられる場所となりました。今後は、こうした活気がさらに周辺に広がり、地域の人々との交流を育む場として根付くことを願っています。観光頼みではなく、地域住民と共に持続的な賑わいを創出し、歴史ある町家の文化を次世代へ受け継いでいきたいと強く感じています。